

## CPC 課題レポート

2023 年 6 月 7 日（水） 第 1397 回 CPC

92 番 岡野雄士

### 課題

1. 剖検が必要と考えられた根拠となった、臨床的な問題点を箇条書きで記しなさい。

- 肝臓の状態の検討
- 感染症の状態の検討

2. 病理解剖で認められた主要な所見を、箇条書きで記しなさい。

- 肝壊死
  - － 胆道閉鎖症による葛西術後（0 歳）
  - － 生体肝移植後（2 歳・24 歳）
  - － 関連疾患：
    - \* 肝動脈（グラフト血管）血栓症（20 cm 長）
    - \* 門脈血栓症
    - \* 出血傾向（左副腎・腹腔内）
- 小腸穿孔
  - － 感染性腹膜炎
  - － 心外膜炎
  - － 解剖時腹水（血腫）培養結果：
    - \* *Pseudomonas aeruginosa*
    - \* *Enterococcus faecium*
- 近位尿細管変異（250; 280 g）
- 左心肥大（569 g, 左室壁厚 1.7 cm）

3. 臨床的な問題点が病理解剖によりどのように解決したか、文章で説明しなさい。

肝臓の状態に関しては、全体に壊死がみられ、肝動脈（バイパス血管）は肝門部から約 20 cm の範囲において血栓閉塞を来し、門脈においても血栓が見られた。また、感染症の状態としては、腹膜炎を来しており、グラフト血管においては血管壁や血管内にグラム陽性球菌を認めた。

**4. 本症例が死に至った病態について、自分が理解した内容を文章で説明しなさい。**

背景疾患として胆道閉鎖症・葛西術後・生体肝移植後肝硬変などがあり、そこに対してさらに肝移植を行っていたが、度重なる開腹手術により腸管癒着を来し、腸管損傷により感染性腹膜炎の状態に至っていた。これにより心外膜炎を併発するだけでなく、移植肝において門脈血栓症・肝動脈（グラフト血管）血栓症を来すことで肝機能を悪化させ、全肝壊死・肝不全をもたらした。それに伴った出血傾向に起因する腹腔内出血や左副腎出血壊死なども見られ、全身状態の悪化と共に死に至ったと考えられる。